

[抄録様式]

公益財団法人 8020 推進財団

平成30年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録

1. 事業名：

長野市内における障害者福祉施設での口腔ケアの取り組み

2. 申請者名：

公益社団法人 長野市歯科医師会 会長 澤口 通洋

3. 実施組織：

公益社団法人 長野市歯科医師会 地域保健部（在宅・障害者担当）

社会福祉法人 長野市社会事業協会 栗田園

4. 事業の概要：

長野市内開設の障害者福祉施設・栗田園において、施設を利用する知的障害者に対し歯科健診及び歯科衛生士による口腔ケアを行った。お口の健康を維持するためにご自身の口腔内の現状を知ってもらい、口腔内診査と口腔衛生指導の他に、受診者及び施設スタッフにリーフレットを配布し口腔ケアの重要性を啓発した。

本年度の研修会では、長野赤十字病院歯科口腔外科部長清水武先生と言語聴覚士の山岸敬先生から、摂食・嚥下機能の評価、および訓練の実際についてご講演いただいた。また、長野赤十字病院神経内科部長の佐藤俊一先生からは認知症の診断方法、治療法の実際についてご講演いただいた。

5. 事業の内容：

障害者福祉施設・栗田園を利用している知的障害者に対し、平成30年11月に口腔内診査と口腔ケアを行った。同年11月から翌31年2月まで毎月一回歯科衛生士が口腔ケアを行い、2月に再度口腔内診査を行った。月一回の口腔ケアでは、一人一人の受診者に適した口腔衛生指導を心がけ、特にブクブクうがいの指導に重点をおいた。受診者のブクブクうがいの様子を見て、再度指導・確認を行った。口腔内診査1回目と2回目の両方の口腔内診査を受けた受診者の結果のうち、食物残渣の状態、歯石の付着状態、歯肉の腫脹および出血、舌苔の付着状態について比較検討した。

6. 実施後の評価（今後の課題）：

月1回（計4回）の口腔ケアで、歯科衛生士は受診者に、磨き方、ブクブクうがいの重要性、磨き残しや歯肉炎があるところを丁寧に説明した。口腔ケアの実施により歯肉の炎症は改善傾向を示したが、下顎前歯部のブラッシングがうまくできるようにならない方が多かったため、下顎前歯部の歯肉の改善が課題であると思われる。栗田園では2年以上受診している利用者が多く、口腔ケアの重要性が施設利用者とその家族に浸透し認知されてきている。さらに、それを継続することの重要性を認識してもらえていることがうかがえた。2年以上受診している利用者の半数は、口腔内診査①の時点で口腔内に食物残渣を認め、口腔衛生状態は決して良いものではなかった。しかし、毎月定期的に歯科衛生士が指導することで、口腔内の衛生状態は改善された。障害のある人たちに限らず、健常者でも適切な口腔状態を維持することは難しく、障害のある人たちこそ定期的な口腔ケアが欠かせないことを再認識できた。

障害のある人たちが豊かな生活をおくり健康度を向上させるためにも、継続的な歯科健診、口腔衛生指導の充実が不可避であると考えられる。ケアの効果は認められるが、次の段階として施設利用者が歯科処置をスムーズに受けられる体制を整えることが望ましい現状であると考えられる。口腔ケアの有用性が示されたこのような事業を他の同様な施設でも行い、最終的には長野市の健診事業として実施されることを期待する。